

農業濁水対策の実証と実践による モデル集落の育成

湖東農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

県内の農業濁水は長期的には改善傾向にありますが、管内の宇曾川は排水河川で、澄みにくい土壌特性という条件もあり、依然として田植時期に濁りが発生しています。このため、一層の改善取り組みが必要となっています。

そこで、宇曾川流域の中央付近に位置し、濁水防止対策に意欲的な愛荘町西出の集落を対象に、新たな農業濁水対策の実証と実践に向けた支援を行いました。

【普及活動の内容】

対象が新たな濁水防止対策の実践に取り組めるよう、①落水を行わずに深水でも田植ができる「自動直進田植機区」、②濁水を澄ます効果がある「石こう資材区」、③浅水代掻きを実施する「技術マニュアル実践区」の3種類の濁水防止技術実証ほを設置し、技術が導入できるか検証を行いました。

併せて、自動直進田植機による深水田植の実演会を開催し、対象を含む管内生産者に対し、濁水防止に向けた意識向上を図りました。



写真 濁水防止技術について説明する普及指導員と説明に対し興味深く聞き入る生産者

【普及活動の成果】

各区の濁水防止効果を検証した結果、「自動直進田植機区」では深水の状態でも欠株もなく真っ直ぐに田植ができたことから導入できる技術であることが確認されました。一方、「石こう資材区」については一定の濁水防止効果はあったものの、ほ場内が深水の状態では十分な効果が発揮されない等、実際に取り組むうえでいくつか課題があることが分かりました。

本結果を踏まえ、次年度では新たに「自動給水栓」による濁水防止技術を加え、引き続き効果の検証を行い、対象で濁水防止対策が実践・定着されるよう支援していきます。

◎対象者の意見

自動直進田植機の性能・実用性は高い。今後も技術実証に協力し、濁水防止に有効な技術を波及させていきたい（N農事組合法人代表理事）。